

文学史の 創造と攪乱

中上健次をめぐって

一国文学史の成立が「近代国民国家」の確立に不可欠なものとしたとき、文学の創造は、文学史の最先端を走り、近代の歩みに並走する試みであると同時に、文学史が形を成すそばからそれを攪乱するような営みであるとも言える。漱石も鷗外も、芥川も谷崎も、日本文学史の構成要素であるだけでなく、攪乱者なのだ。そう考えたとき、戦後文学のなかで、記紀や仏教説話や説経節や近代文学の編成全般に攪乱を仕向けたのが中上健次だったのではないかと思う。その生誕80年を記念して刊行された『ユリイカ臨時増刊 中上健次』（青土社）を読みこんだうえで、さらに議論を深めたい。

本企画は、同特集の執筆者に声をかけ、日本史、さらには世界史の闇の部分に迫ろうというものである。

2026 11.29 (日)

13:30 - 17:30 (開場 13:00)

**立命館大学 朱雀キャンパス
中川会館 307教室**

なお本研究会は、会場でも、オンライン上でもご覧いただけます。

ただし、現地での傍聴希望、およびオンラインでの傍聴希望の方は、前日11月28日までに事前の登録をお願いいたします。

氏名と肩書を記したメールを西 (mas-nis@nifty.com) までお送りください。



PROGRAM

第1部 研究発表会 13:30 -

寧宇

(武漢大学ポストドクター研究員)

「Buffalo soldier from the Roji:

中上健次「天人五衰」とその後」

VIENOLA Oskari Juho Johannes

(大阪大学大学院人文学研究科博士前期課程)

「中上健次『火まつり』とエコクリティシズム」

**第2部 『ユリイカ臨時増刊 中上健次』
合評会 15:30 -**

友常勉 東京外国語大学国際日本学研究院教授

松田法子 京都府立大学大学院
生命環境科学研究科准教授

山田広昭 東京大学名誉教授

渡邊英理 大阪大学大学院人文学研究科教授

企画責任者・全体司会：西成彦（上席研究員）

主催：研究所重点プロジェクト「世界／日本文学のモダニティ（モダニズム研究会）」（代表：三須祐介）